



自民党

TOKAメールは 衆議院議員 とかしきなおみの政治活動を報告しています。 <討議資料>

衆議院議員 自民党大阪7区(吹田市・摂津市)支部長

# とかしきなおみ

とかしきなおみ後援会事務所 〒564-0026 吹田市高浜町9-16 TEL.06-6319-1535 FAX.06-6319-1536



**今** 年の夏は沖縄への思いを繋ぐ為に『衆議院環境委員会』と『衆議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会』の両委員会の視察で、2度沖縄を訪れました。

私の素朴な沖縄に対する疑問！  
『沖縄は今やハワイより多く年間約1000万人もの観光客が訪れる島なのに、沖縄県民の「1人当たり県民所得」は、27年連続で全国最下位で 約217万円と、全国平均(約319万円)の7割弱の水準に止まっている。それは何故か?』



この疑問に対する答えは、視察中に懇談を重ねた玉城デニー知事を始め、川上好久沖縄振興開発金融公庫理事長、前泊博盛沖縄国際大学教授、



桑原康二日本銀行那覇支店長との意見交換会で徐々に見えてきました。沖縄側の皆さんからの主張を集約すると以下の3つでした。

- 1.所得が低くなりがちな観光サービス業などに偏った産業構造を持っている
- 2.労働生産性の低さ
- 3.付加価値の高い製造産業がない

ここで、杉並区義時代に手がけた商店街の活性化策『沖縄タウン』の経験をもとに、私の方から次の様な話をさせて頂きました。

『沖縄の弱点は、マーケティング力が極端に弱い事だ。良いものを作れば売れるという考え方が根底にあり過ぎて、利益の確保より、より良い商品開発が優先されている。だから、コスト意識も低くなり、労働生産性も改善されない。結果的に主要産業の観光業も薄利になってしまい、付加価値を産む産業育成ができない。この負の循環に入っているから県民所得が上がらないのだと思う。でもマーケティング力さえ付けば、好循環を創出する要素はたくさん持っている県なので、挽回は絶対出来る』すると、沖縄側の皆さんからは、その通りです!腑に落ちました!と言って頂きました。沖縄タウンを手がけた経験が、思わぬところで活きました。

## 2度の沖縄視察を経て今想うこと

**次** に『世界自然遺産登録に向けて』気がついた事がありました。『世界自然遺産登録に現在環境省は努力しているが、むしろ大切なのは登録後ではないか。登録直後、間違いなく観光客が大挙して沖縄に押し寄せる事になる。その時に生態系を守りながら観光客の満足度を満たす、この2つの目的を同時に達成出来るように、今から準備しておくべきだ。この課題は世界自然遺産に認定されたどの国も同じ悩みを持っているはず。我が国がこの2つの目的を同時に達成出来る方法に取り組みを、世界に発信出来るようにしてはどうか』と。

そして現在沖縄で大きな問題となっているのは『海洋ゴミ』の問題です。西表島のユツン海岸で、環境委員全員でゴ



ミ拾いましたが、海岸線に沿ってゴミだらけなので、全く移動せず目の前のごみをひたすら拾うという拾集となりました。気がつくにあっという間に写真の様にゴミが一山集まりました。現地に行ってみると分かったのは、プラスチックゴミは軽いので、海岸に打ち上げられると風で内陸に飛ばされて、海岸線に沿って茂っている木の根の元に溜まってしまおうという事です。プラスチックは土に還らないので撤去しない限り永遠にこの場所に留まります。

撤去しても、塩分を含んでいるゴミなので、島では処理が大変難しいとの事でした。G20でも主要議題になった『海洋プラスチック』の問題。急ぎ対策を講じなければ深刻な事態を招くという、抜き差しならない厳しい状況にあるとよく分かりました。



# 沖

縄の将来に希望が持てたのは、沖縄科学技術大学院大学(OIST)を訪れた時でした。ピーター・グルース学長から『沖縄を革新する:OISTが貢献出来ることはなにか』というタイトルの大学の説明をして頂きました。内容を伺ってまた納得!観光だけでなく沖縄に合った産業を育成するには環境など時代のニーズに合わせて多岐に研究を先駆的に手がけている事がよく分かりました。世界的にも評価の高いこのOISTで、沖縄の為にこの様な素晴らしい取り組みをして頂いているとは、有り難い事です。沖縄の将来の為にOISTの活動をしっかり応援したいと心から思いました。

視察の最後に訪問したのは、航空自衛隊那覇基地でした。離陸に向かう機内から、スクランブル発進をする自衛隊のF15を見送った事が何度かあったの



で、那覇空港の自衛隊の活動には興味がありました。最近では1日平均約2回のスクランブル発進をしているそうです。国境線を守る大変さを伺い、F15のパイロットの方に『日本の守りをよろしくお願いします』と思わず頭を下げてしまいました。

沖縄には、日本の抱えている問題の多くが濃縮されていていま浮き彫りになって

います。しかし、取り組み方によっては、課題を突破する糸口を多く持っているとも思いました。多くの問題を乗り越えるコツは『決して諦めないこと』沖縄の血を受け継ぐ国会議員として、これからも沖縄を舞台にした政治活動にも燃えていきたいと思えます。



## 各国保健大臣が健都(北大阪健康医療都市)視察へ

6月28日、G20のイタリア・ロシア・中国など14カ国の保健大臣と関係者約60名の皆様に「北大阪健康医療都市(健都)」を視察頂きました。

根本厚労大臣をはじめ後藤吹田市長や森山摂津市長から「健康と医療をテーマとした世界初の試み」として健都の紹介をしました。残念ながら私は企画段階で参加しただけで同席は叶いませんでした。しかし、ドイツ大使から連絡がありザビーネ・ヴィアス政務次官に、『健都をどうして創ろうと思ったか。その狙いは何か?予防医療と街づくりの関係は?そして今後の健都の展開を説明して欲しい』と要望を受けました。説明後『健都は、間違いなく世界の健康維持をリードする国際都市になって行くでしょう』と、うれしい言葉を頂きました。

さらに吹田市は6月15・16日に軽井沢で行われた、環境大臣G20にも参加しました。プラスチックゴミを削減するために、全国初の試みとしてマイバックをシェアするための無償貸し出しを「イオン吹田店」で挑戦すると紹介しました。今年の6月、吹田市と摂津市はG20を通して様々な取り組みを世界に発信しました。

